

教科名（音楽）

1 生徒の現状分析

観 点	分 析 内 容
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・姿勢、発声、発音、表情等の基本的な技能は、学年が上がるごとに定着している。・表現技能の向上のために必要な基本的な知識が定着していない。・声を出して歌おう（声量）とするが、歌詞の内容や強弱記号、息つきなどを意識するところまでには至っていない。・創作は、基本的な知識の理解に時間を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・身につけた知識が表現活動に結びついていない。・鑑賞する際はポイントを絞り、感じたことを素直に、よく書いている。・日本の民謡や、能楽などの伝統音楽は理解することは難しいようである。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・授業規律を守り、落ち着いた環境で歌唱、鑑賞、和楽器実技に取り組もうとしているが、落ち着かない場面もある。提出物は内容を理解し、期限を守ることのできない生徒が多い。

2 指導方法の課題分析

- (1) 授業規律の確立と、基本的な表現の定着に向けた環境整備と教材研究。
- (2) 基本的な知識を表現、創作活動に活かせるような教材準備と工夫。
- (3) 鑑賞において、曲、作曲者、時代、背景等への関心につながる教材研究。
- (4) 和楽器実技では基本的な知識、奏法を理解し、実技に活かせるような事前学習の工夫。

3 授業改善に向けての方策

- (1) 落ち着いた環境作りのために、学習環境を整える。
- (2) 自己評価の記入により、学習内容が分かるようにする。
- (3) 合唱の導入では呼吸のエクササイズを行った後、「校歌」を歌う。ピアノで旋律を確認した後、リーダーを中心にパート練習を繰り返し行い、パート内での対話をとおして、楽譜を読み解く力を身につける。合わせ練習では各パートの力を結集させ、全体の響きを意識できるように表現活動の向上に努める。
- (4) 鑑賞では、学習内容を理解させるために、視聴覚教材や補助教材を使用する。
- (5) 創作では手順に従って、音楽づくりに親しめるようにする。
- (6) 和楽器実技では、箏の親指の奏法を中心に事前学習で理解させ、実技に活かせるようにする。(グリッサンド、押し手、トレモロ)

4 その他

- (1) 合唱コンクールの伴奏・指揮者の練習は、夏休みに行う。
- (2) 和楽器実技では、箏を一人1面使用し、外部指導員による授業を展開する。